

薩摩川内市健康づくり計画(第2次) 中間評価報告書

令和4年3月
薩摩川内市

目次

第1章 中間評価にあたって	1
1 薩摩川内市健康づくり計画の経緯	1
2 薩摩川内市健康づくり計画（第2次）の概要	1
(1) 計画の基本理念・基本方針	1
(2) 計画の体系図	2
(3) 計画の推進体制	2
第2章 中間評価について	3
1 中間評価の趣旨	3
2 中間評価の体制・調査等	3
(1) 薩摩川内市健康づくり推進協議会	3
(2) 中間評価に関わる調査・アンケート等の実施	3
3 中間評価スケジュール	4
第3章 中間評価の結果	5
1 全体の評価	5
2 各分野ごとの評価	7
(1) バランスのとれた食生活・食習慣の実現	7
(2) 生活における身体活動量の増加	10
(3) 休養・こころの健康の確保	11
(4) 適正な飲酒習慣の実現	13
(5) 禁煙と効果的な分煙の促進	14
(6) 歯と口の健康づくりの促進	16
(7) 生活習慣病の発症予防と重症化予防	18
(8) 次世代の健康	20
(9) 高齢世代の健康	24

参考資料.....	25
1 人口等.....	25
2 標準化死亡比（SMR）.....	27
3 介護認定率.....	28
4 長寿健診.....	29
5 各事業の実績.....	30
(1) 母子保健事業.....	30
(2) 子育て世代包括支援センター事業.....	35
(3) 予防接種事業.....	37
(4) 歯科保健事業.....	38
(5) 健康増進事業.....	40
(6) 介護予防事業.....	47
(7) 健康づくり推進協議会作業部会.....	49

第1章 中間評価にあたって

1 薩摩川内市健康づくり計画の経緯

薩摩川内市では、平成23年度から母子保健計画と健康さつませんだい21を合わせた、第1次となる「薩摩川内市健康づくり計画」を策定し、市民一人ひとりの「生涯を通じた健康づくり」を支援してきました。

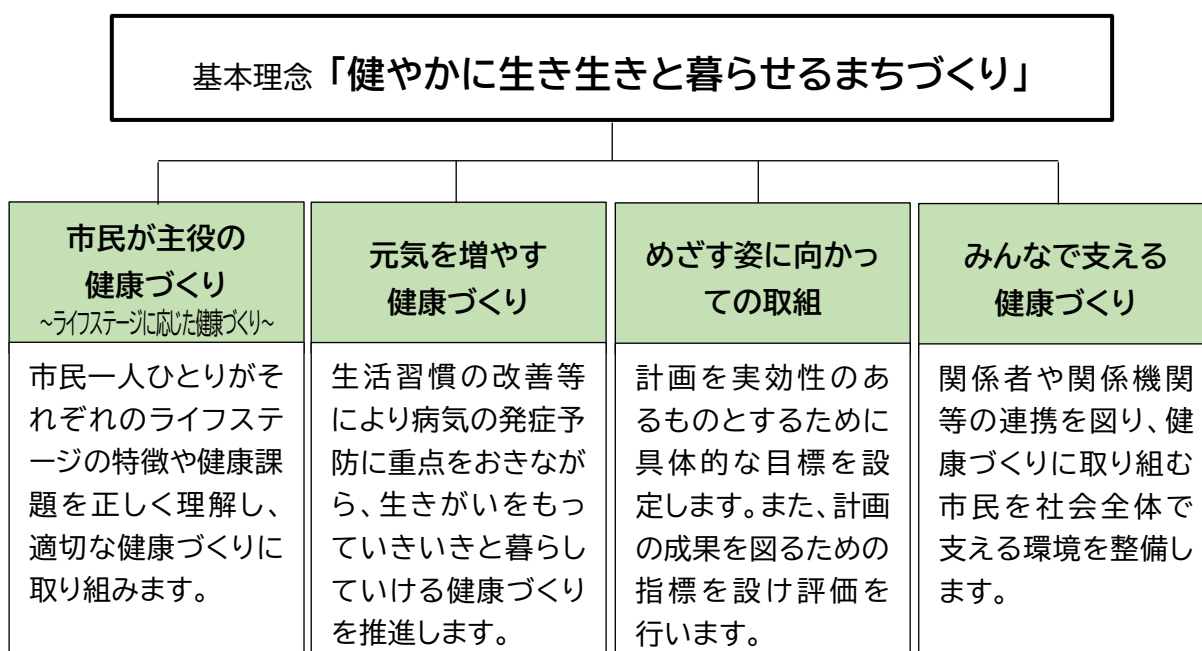
平成28年度から、「薩摩川内市健康づくり計画（第1次）」を見直し、最終評価で明らかになった課題や社会情勢の変化等を踏まえ、今後の市民の健康づくりを総合的に推進するために、令和7年度までの10年間の計画として、「薩摩川内市健康づくり計画（第2次）」を策定し推進してきました。健康寿命の延伸と健康格差の縮小、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底などを目的とし、すべてのライフステージで市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことを、関係機関・団体、地域、学校等と一体となって支援できることを目指しています。

本年度、計画の中間年度にあたることから、目標の達成度やこれまでの取組・課題等について検証を行い、社会情勢の変化等に対応し、今後の計画推進に資するため、中間評価を実施することといたしました。

2 薩摩川内市健康づくり計画(第2次)の概要

「薩摩川内市健康づくり計画（第2次）」とは、すべての市民が心身ともに健やかに過ごせる未来を目指すし、10年間（平成28年度～令和7年度）における薩摩川内市の健康づくりの指針となる計画です。

(1) 計画の基本理念・基本方針



(2) 計画の体系図



(3) 計画の推進体制



第2章 中間評価について

1 中間評価の趣旨

薩摩川内市健康づくり計画（第2次）について、令和2年度、計画の推進5年が経過したため、設定した目標の達成状況や、これまでの取組・課題等について検証を行い、社会情勢の変化等に対応し、今後の計画の推進に資するため、中間評価を実施しました。

ただし、令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による生活の変化により、受診控え、生活習慣病の悪化、自粛生活による食生活や運動習慣の変化などが生じています。この状況下における評価であることを念頭におきつつ、今後の動向を注視しながら、ウィズコロナ・アフターコロナ時代に対応できる健康づくり、環境整備の取組を充実していく必要があります。

2 中間評価の体制・調査等

(1) 薩摩川内市健康づくり推進協議会

市の推進方針等に、外部委員の意見反映を図るために、健康関係機関（医師会・歯科医師会など）、地域の団体（食生活改善推進員・母子保健推進員など）、学校（学校・幼稚園など）、その他の関係機関（鹿児島県など）などで構成する健康づくり推進協議会において、目標の達成度や取組状況等を検証しました。

(2) 中間評価に関わる調査・アンケート等の実施

「薩摩川内市健康づくり計画（第2次）」について、設定した目標の達成状況、生活習慣・健康意識及び身体的健康度を把握するとともに、本年度の中間評価を行うにあたり、改善策の検討を行う上で必要となる情報を得ることを目的として令和2年度に実施しました。

なお、調査・アンケートの集計結果については、第3章2「各分野ごとの評価」において中間評価直近値(令和2年度)として反映させています。

【調査対象者・調査方法・回収率】

調査名	調査方法	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
「子育てと子どもの健康」に関する調査	健診の案内と同時に配布、健診時に回収	1,093 件	1,042 件	1,040 件	95.2%
妊婦用アンケート		301 件	301 件	301 件	100.0%
小学1年生保護者アンケート	モデル小学校8校への配布回収	385 件	359 件	356 件	92.5%
小学4年生保護者アンケート		393 件	364 件	360 件	91.6%
小学6年生アンケート		363 件	356 件	354 件	97.5%
中学1年生アンケート	モデル中学校6校への配布回収	395 件	381 件	356 件	90.1%
中学3年生アンケート		392 件	384 件	360 件	91.8%
高校3年生アンケート	モデル高校4校への配布回収	767 件	745 件	739 件	96.3%
薩摩川内市生活習慣調査	郵送による配布回収	3,000 件	1,232 件	1,232 件	41.1%
高齢者実態調査	郵送による配布回収	5,000 件	-	2,391 件	47.8%

3 中間評価スケジュール

年 月	内 容
令和2年10月～2月	評価に関する各種アンケート調査実施
令和3年3月	薩摩川内市健康づくり計画（第2次）中間評価事前調査報告書作成
令和3年4月～12月	中間評価報告書（案）の作成・検討・協議
令和4年1月	薩摩川内市健康づくり推進協議会における検証（書面開催）

第3章 中間評価の結果

1 全体の評価

160指標の達成状況は、目標達成している指標が23指標（14.4%）、改善している指標が48指標（30.0%）で、2つ合わせて71指標（44.4%）と全体の4割を超える指標が策定時より改善していた。

「休養・こころの健康の確保」、「適正な飲酒習慣の実現」、「禁煙と効果的な分煙の促進」、「歯と口の健康づくりの促進」、「次世代の健康」の分野では、改善している指標の割合が高くなっている。一方、悪化している指標は43指標（26.9%）で、特に「生活における身体活動量の増加」、「生活習慣病の発症予防と重症化予防」の分野において、悪化している指標が高くなっている。

【全分野の目標達成状況について(160 指標)】

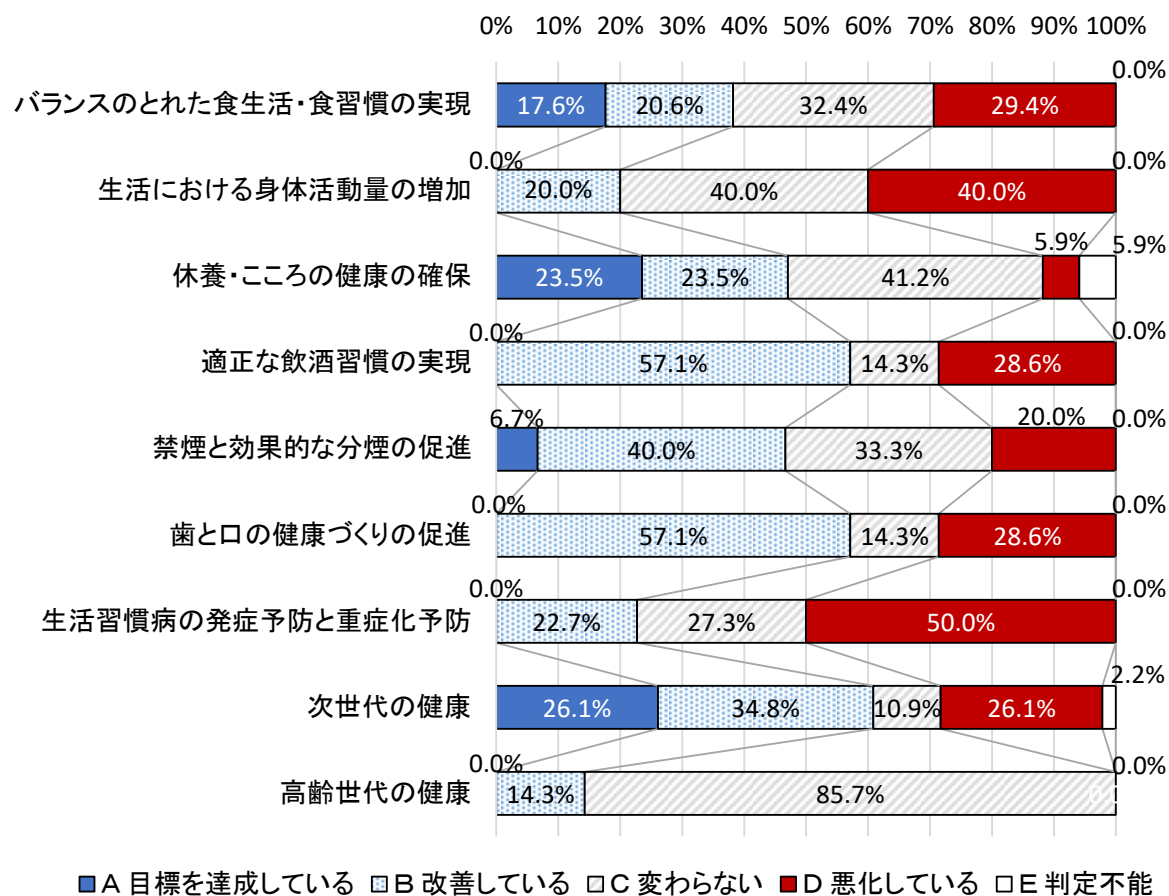
判定	評 価	解 釈	指標数(割合)
A	目標を達成している	令和7年度の目標値を達成している	23 (14.4%)
B	改善している	現状値が策定時より目標値に近づいている	48 (30.0%)
C	変わらない	現状値が策定時と変化なし	44 (27.5%)
D	悪化している	現状値が策定時より目標から遠ざかっている	43 (26.9%)
E	判定不能	策定時の数値が不明	2 (1.3%)

【分野別の目標値達成状況】

分 野		指標数	達成状況				
			A	B	C	D	E
1	バランスのとれた食生活・食習慣の実現	34	6 17.6%	7 20.6%	11 32.4%	10 29.4%	0 0.0%
2	生活における身体活動量の増加	5	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%
3	休養・こころの健康の確保	17	4 23.5%	4 23.5%	7 41.2%	1 5.9%	1 5.9%
4	適正な飲酒習慣の実現	7	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%
5	禁煙と効果的な分煙の促進	15	1 6.7%	6 40.0%	5 33.3%	3 20.0%	0 0.0%
6	歯と口の健康づくりの促進	7	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%
7	生活習慣病の発症予防と重症化予防	22	0 0.0%	5 22.7%	6 27.3%	11 50.0%	0 0.0%
8	次世代の健康	46	12 26.1%	16 34.8%	5 10.9%	12 26.1%	1 2.2%
9	高齢世代の健康	7	0 0.0%	1 14.3%	6 85.7%	0 0.0%	0 0.0%
合 計		160	23 14.4%	48 30.0%	44 27.5%	43 26.9%	2 1.3%

【分野別の目標達成状況】

分野別指標の判定割合



2 各分野ごとの評価

(1) バランスのとれた食生活・食習慣の実現

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
家族そろって食事をする家庭の割合	保護者	増加傾向へ	56.2%	58.2%	B
食事の準備や片付けなどの手伝いをする子どもの割合	小学1年生	39%以上	34.8%	33.7%	D
	小学4年生	47%以上	41.9%	35.6%	D
	小学6年生	46%以上	41.8%	40.1%	D
	中学1年生	46%以上	41.5%	40.7%	D
	中学3年生	39%以上	34.9%	43.6%	A
	高校3年生	40%以上	36.2%	38.3%	B
朝食を欠食する子どもの割合	1歳以上の未就学児	減少傾向へ	2.8%	2.2%	C
	中学1年生	2%以下	7.7%	6.2%	B
	中学3年生	2%以下	5.9%	6.6%	C
	高校3年生	9%以下	10.7%	9.7%	B
朝食欠食者（週4日以上）の割合	20歳代男性	15%以下	46.9%	46.7%	C
	30歳代男性	15%以下	21.7%	33.3%	D
	20歳代女性	15%以下	29.1%	19.2%	B
主食・主菜・副菜を揃えるように心がけている人の割合	保護者	増加傾向へ	81.5%	84.5%	B
	成人全体	88%以上	79.9%	77.4%	C
野菜を毎日食べる人の割合	成人全体	72%以上	51.3%	49.7%	C
大豆製品をほぼ毎日食べる人の割合	成人全体	30%以上	22.5%	23.3%	C
魚を週3回以上食べる人の割合	成人全体	82%以上	53.9%	42.8%	D
煮物など味付けは濃い方である人の割合	成人全体	24%以下	27.1%	23.8%	A
脂肪分の多い食事をよく食べる人の割合	20歳代	21%以下	23.9%	29.9%	D
	30歳代	19%以下	22.1%	21.4%	C
夕食後に、寝る前2時間以内食事をする人の割合	40～74歳男性	20%以下	23.2%	17.6%	A

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
おやつの時間を決めている割合	1歳6か月児	増加傾向へ	67.4%	74.7%	A
	3歳6か月児	増加傾向へ	72.5%	72.8%	C
甘いものをよく食べる人の割合	20歳代女性	37%以下	52.7%	55.8%	C
	30歳代女性	37%以下	45.6%	50.0%	D
砂糖入りのコーヒー・紅茶や甘いジュースを毎日飲む人の割合	20歳代女性	26%以下	29.1%	23.1%	A
	成人男性	16%以下	23.1%	14.6%	A
自分の食生活に問題があると思う人のうち、改善意欲のある人の割合	成人男性	100%	85.8%	82.8%	C
	成人女性	100%	89.9%	87.4%	C
外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人の割合	成人全体	80%以上	41.9%	37.6%	D
外食栄養成分表示店舗数	市内の飲食店舗	48店舗以上	41店舗	29店舗	D
薩摩川内市ヘルシーメニュー提供店	市内の飲食店舗	30店舗	13店舗	18店舗	B

※外食栄養成分表示店舗数は「かごしま食の健康応援店」を参考にしている。

※前回の数値は、栄養成分表示店舗とヘルシーメニュー提供、ヘルシーオーダー対応の店舗も含んだ数になっている。

※R3.3.19現在の登録数。栄養成分表示が19店舗、ヘルシーメニュー提供・ヘルシーオーダー対応のみの店舗が10店舗。

【「バランスのとれた食生活・食習慣の実現」の現状と課題】

- 「家族そろって食事をする家庭」については、改善傾向が見られる。また、「食事の準備や片付けなどの手伝いをする子ども」は、中学3年生と高校3年生は目標を達成しているが、その他の年代は目標達成に至っていないという結果となった。
- 朝食欠食者については、学童期・思春期、20歳代女性においては改善傾向となっているが、30歳代男性では悪化の傾向が見られる。
- バランスのとれた食生活について、全体的には変わらない、もしくは悪化の傾向となっており、成人の「魚を週3回以上食べる人」、20歳代の「脂肪分の多い食事をよく食べる人」は悪化傾向が見られる。一方、成人全体の「煮物など味付けは濃い方である」は目標を達成しており、改善傾向が見られる。
- 食習慣について、40～74歳男性の「夕食後に、寝る前2時間以内食事をする人」は目標を達成している。また、「おやつの時間を決めている」について、1歳6か月児は改善傾向にあり、3歳6か月児は若干の改善傾向が見られる。20歳代女性、30歳代女性の「甘いものをよく食べる人」については、どちらかという悪化の傾向となっているが、20歳代女性、成人男性の「砂糖入りコーヒー・紅茶や甘いジュースを毎日飲む人」は改善

の傾向が見られ、成人男性では目標を達成している。

- 「自分の食生活に問題があると思う人のうち、改善意欲のある人」については、成人男性、成人女性とも計画策定時と変わりはなく、目標達成には至っていない。また、「外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人」は、計画策定時より悪化しており、目標には程遠い状況となっている。
- 「外食栄養成分表示店舗数」は、計画策定時より店舗数が減少している。また、「薩摩川内市ヘルシーメニュー提供店」は増加しているものの、目標達成には至っていない。
- 野菜を食べる人の割合は変わらないが、目標を大きく下まわっている。
- 標準化死亡比の高いいずれの疾患とも深い関わりのある高血圧、肥満症、高血糖対策が本市の重点課題であると考えられる。

【今後の取組】

- ① バランスのとれた食生活、食習慣を実現する事で健康な体づくりが出来る事を普及啓発する。
- ② 高血圧・肥満・糖尿病の発症及び重症化のために、年齢・活動量に応じた適量、適塩、野菜摂取の大切さ等、食事が体を作っていることについて、あらゆる場面で普及推進を図る。
- ③ 乳幼児期には乳幼児健診や各種健康教育等の場面、家庭訪問や健康相談等における保健指導の場면을効果的に活用する。
- ④ 野菜を一日350g以上食べる「薩摩川内市350ベジライフ」を継続的に取組み、マスコミやSNS等広報媒体を活用して情報発信に努める。
- ⑤ 350ベジライフ賛同団体の登録数を増やし、関係機関と協力して効果的な普及啓発に努める。
- ⑥ 外食や食品を購入する際、体にあった望ましい選択が出来るよう栄養成分表示（塩分・糖質・脂質・タンパク質等の記載）の見方や活用を周知する。
- ⑦ 乳幼児健診等の機会を利用して、子どものうちからの生活習慣病予防を見据えた保健指導を実施する。
- ⑧ 高血圧、肥満症、高血糖対策として、ライフサイクルと体の仕組みを考慮した重層的、計画的な取り組みを実施する。
- ⑨ 日本の食文化を大切にし、旬の食材、本市農産物を活用した食生活・食習慣を啓発する。

(2) 生活における身体活動量の増加

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
日頃から日常生活の中で、健康の維持・増進のために意識的に身体を動かすなどの運動をしている人の割合	成人男性	69%以上	62.7%	56.9%	D
	成人女性	66%以上	59.8%	56.1%	D
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	40～74 歳	60%以上	54.1%	51.0%	C
1回 30 分以上軽く汗をかく運動を週2日以上、1年実施している人の割合	40～74 歳	50%以上	44.6%	42.7%	C
よく子どもと一緒に遊ぶ父親の割合	父親	増加傾向へ	64.7%	68.9%	B

【「生活における身体活動量の増加」の現状と課題】

- 「日頃から日常生活の中で、健康の維持・増進のために意識的に身体を動かすなどの運動をしている人」については、成人男性、成人女性ともに悪化の傾向が見られる。
- 40～74歳の「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人」及び「1回30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上、1年実施している人」は、計画策定時とあまり変化がなく、目標達成には至っていない。
- 「よく子どもと一緒に遊ぶ父親」は増加傾向となっており、目標を達成している。

【今後の取組】

- ① 日常的に身体活動量を増やすことを意識してもらえるように、各年代、生活環境などに応じた運動の効果、方法、社会資源等に関する正しい知識や情報の提供を行う。
- ② 通勤や家事等も身体活動に含まれることを啓発し、日常生活の中での活動量を増やす取組の普及を図る。
- ③ 公園や運動施設、各種運動講座やイベント等を広報し、運動のきっかけづくりにつなげる。

(3) 休養・こころの健康の確保

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
育児について相談相手のいる母親の割合	母親	増加傾向へ	99.8%	99.9%	B
父親が母親の相談相手、精神的な支えになる割合	保護者	増加傾向へ	73.0%	77.4%	B
ほっとできる場所がある生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	92.8%	94.2%	B
	高校3年生	増加傾向へ	93.4%	96.1%	B
ほっとできるときがある生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	95.7%	96.7%	C
	高校3年生	増加傾向へ	96.7%	96.3%	C
心の底から笑ったことが「何度もあった」「時々あった」人の割合	成人全体	84%以上	75.7%	73.7%	C
必要な時、周りに気兼ねなくストレス解消ができていない人の割合	20～40 歳代	60%以上	54.0%	64.2%	A
生きがいを感じている、または多少感じている割合	40～64 歳	82%以上	72.7%	72.9%	C
不安や悩み、ストレスが「大いにあった」人の割合	成人全体	13%以下	14.8%	14.1%	C
睡眠によって休養が十分にとれていない人の割合	成人全体	17%以下	20.7%	21.0%	C
眠りを助けるためにアルコールを飲むことのある人の割合	成人全体	20%以下	21.3%	19.3%	A
不安があるときだれにも相談しない児童・生徒の割合	小学6年生	減少傾向へ	13.5%	15.5%	C
	中学3年生	減少傾向へ	20.6%	11.9%	A
	高校3年生	減少傾向へ	—	10.4%	E
自分の悩みやストレスの相談をする相手がいない、または誰にも相談しない人の割合	成人全体	9%以下	11.4%	12.8%	D
自殺者の数	全市民	減少傾向へ	21 人	14 人	A

【「休養・こころの健康の確保」の現状と課題】

- 育児等の相談相手については、「育児について相談相手のいる母親」、「父親が母親の相談相手、精神的な支えになる」とも、改善傾向が見られる。
- 思春期における心の健康について、「ほっとできる場所がある生徒」は改善傾向が見られ

るが、「ほっとできるときがある生徒」は計画策定時と大きな変化はない。

- 成人の心の健康について、「必要な時、周りに気兼ねなくストレス解消ができて人」は大きく改善し、目標を達成したが、「心の底から笑ったことがあった人」、「生きがいを十分感じている、または多少感じている」、「不安や悩み、ストレスが「大いにあった」人」は計画策定時と大きな変化はない。また、「自分の悩みやストレスの相談をする相手がいらない、または誰にも相談しない人」は計画策定時より悪化している。
- 睡眠について、「眠りを助けるためにアルコールを飲むことのある人」は改善傾向にあり、目標を達成したが、「睡眠によって休養が十分にとれていない人」は計画策定時とあまり変わらない。
- 学童期・思春期において、「不安があるときだれにも相談しない児童・生徒」については、中学3年生は改善傾向が見られるが、小学6年生は若干ではあるが増加傾向が見られる。
- 自殺者数については、計画策定時より改善し、目標を達成している。

【今後の取組】

- ① 自分に合ったリラックス方法や休養のとり方があり、それが身体とこころの健康を保つことにつながることを啓発するとともに、自分のストレスやこころの健康状態を自覚するため、自己チェック法を推進する。
- ② 睡眠の質を保ち、睡眠環境を整えるための情報提供を行う。
- ③ 休養及び睡眠、ストレスの解消は、こころの健康に密接に関連しているため、職場の労働条件を含め休養を取りやすい社会環境づくりを進める。
- ④ メディアの正しい使用方法の知識を普及し、コミュニケーション力の向上を進める。
- ⑤ 「こころの相談窓口」を紹介し、必要時に専門家のアドバイスや問題解決できる手段を周知する。

(4) 適正な飲酒習慣の実現

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
妊婦の飲酒率	妊婦	0%	0.9%	0.2%	B
飲酒経験のある生徒の割合	中学3年生	0%	16.1%	8.9%	B
	高校3年生	0%	26.5%	9.9%	B
多量飲酒者(ビール換算で1日中 瓶2本以上をほぼ毎日飲む人)の 割合	成人男性	14%以下	19.1%	18.7%	C
	成人女性	0.6%以下	2.0%	2.5%	D
飲酒する成人のうち、意識的に休 肝日を設けようと心がけている人 の割合	成人男性	53%以上	43.9%	46.2%	B
	成人女性	69%以上	63.5%	59.0%	D

【「適正な飲酒習慣の実現」の現状と課題】

- 妊婦の飲酒率については、改善傾向が見られる。
- 思春期の飲酒経験について、「飲酒経験がある生徒」は減少傾向にあり、改善傾向にある。
- 成人女性の「多量飲酒者」は、増加傾向にあり、「飲酒する成人のうち、意識的に休肝日を設けようと心がけている人」は、男性は改善傾向が見られるが、女性は悪化している。

【今後の取組】

- ① 中・高校生にアルコールに関する正しい知識を啓発する。
- ② アルコールの適正飲酒や多量飲酒の健康影響に関する知識、アルコール依存症など関連する問題について、広報紙や健康教室等を利用して正しい知識の普及を図る。
- ③ 女性は男性よりアルコール代謝能が低いことから、取組の際飲酒による健康影響や性差に関して正しい情報を提供する。

(5) 禁煙と効果的な分煙の促進

指標		対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
妊婦の喫煙率		妊婦	0%	2.8%	1.9%	B
育児期間中の父親の喫煙率		父親	減少傾向へ	54.7%	44.4%	B
育児期間中の母親の喫煙率		母親	減少傾向へ	10.4%	7.7%	B
喫煙経験がある生徒の割合		中学3年生	0%	1.3%	1.7%	C
		高校3年生	0%	4.8%	3.5%	B
敷地内禁煙の幼稚園・保育園・小中学校の割合		市内の幼稚園・保育園・小中学校	100%	80.2%	90.3%	B
喫煙で右の疾患にかかりやすくなると思う人の割合	肺がん	成人全体	100%	92.1%	91.3%	C
	ぜんそく	成人全体	100%	48.8%	47.6%	C
	気管支炎	成人全体	100%	63.7%	62.5%	C
	心臓病	成人全体	100%	33.5%	32.6%	C
	脳卒中	成人全体	100%	37.7%	35.5%	D
	胃潰瘍	成人全体	100%	16.5%	13.6%	D
	妊娠への影響	成人全体	100%	35.5%	31.6%	D
	歯周病	成人全体	100%	24.0%	28.7%	B
公共の場における禁煙(建物内全面禁煙)実施率		成人全体	100%	91.7%	100.0%	A

【「禁煙と効果的な分煙の促進」の現状と課題】

- 「妊婦の喫煙率」、「育児期間中の父親の喫煙率」、「育児期間中の母親の喫煙率」については、改善傾向が見られる。
- 「喫煙経験がある生徒」については、中学3年生は計画策定時とほぼ変わらず、高校3年生は改善傾向が見られる。
- 「敷地内禁煙の幼稚園・保育園・小中学校」については、改善傾向にあるが、目標達成には至っていない。
- 「喫煙で疾患にかかりやすくなると思う人の割合」について、「歯周病」は改善傾向が見られるが、「肺がん」「ぜんそく」、「気管支炎」、「心臓病」は計画策定時と大きく変わらない。また、「脳卒中」、「胃潰瘍」、「妊娠への影響」は悪化の傾向が見られる。
- 「公共の場における禁煙（建物内全面禁煙実施率）」については、計画策定時から大きく改善され、100%の目標を達成している。

【今後の取組】

- ① 喫煙や受動喫煙が自分や他者の身体に及ぼす影響について啓発する。特に妊娠期は、母体だけでなく胎児へも影響があり、胎児においては成人期に渡るまで健康被害を及ぼすことを周知する。
- ② 引き続き、中・高校生に喫煙に関する正しい知識を啓発する。
- ③ 健診受診者への喫煙の健康影響に関する資料の配布、健康教室などでの学習会の開催、職場でのたばこ対策の必要性の啓発など、機会をとらえて啓発に努める。
- ④ 電子タバコに関する正しい知識の啓発に努める。

(6) 歯と口の健康づくりの促進

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
3歳児でむし歯のない者の割合	3歳児	88%	74.1%	80.4%	B
3歳児で不正咬合などが認められる者の割合	3歳児	8%	10.0%	12.2%	D
12歳児でむし歯のない者の割合	中学1年生	65%	38.0%	59.7%	B
40歳で進行した歯周炎を有する者の割合	40歳	25%	43.0%	50.6%	D
40歳で未処置歯を有する者の割合	40歳	10%	69.9%	57.0%	C
60歳で進行した歯周炎を有する者の割合	60歳	45%	75.0%	67.8%	B
60歳で未処置歯を有する者の割合	60歳	10%	86.0%	43.0%	B

【「歯と口の健康づくりの促進」の現状と課題】

(乳幼児期)

- 保護者の歯科保健に関する意識は高まってきており、「3歳児でむし歯のない者の割合」は改善傾向が見られるが、全国平均と比較してまだ低い状況にある。
- 「3歳児で不正咬合などが認められる者の割合」は増加傾向にあり、噛みごたえのある食べものを嫌がる子どもの割合も増加傾向が見られる。

(学童期・思春期)

- 「12歳児でむし歯のない者の割合」は改善傾向が見られるが、全国平均と比較してまだ低い状況にある。
- 定期的な歯科健診（管理）を受けるために歯科医院に行く者や自分の口の状態にあった歯みがきの方法を個別に教えてもらったことがある者の割合は増加傾向にあり、歯科保健に関する意識は高くなってきている。
- 市内の全公立小学校・中学校において、継続的にフッ化物洗口に取り組んでいる。

(青年期・壮年期・高齢期)

- 40歳については、「40歳で未処置歯を有する者の割合」は若干の改善傾向となっているが、目標とはまだ大きな差がある。また、「40歳で進行した歯周炎を有する者の割合」は増加傾向にある。
- 60歳については、「60歳で進行した歯周炎を有する者の割合」、「60歳で未処置歯を有する者の割合」とともに改善傾向が見られる。
- 1日に1回は、時間をかけて丁寧に歯や入れ歯をみがく者やデンタルフロスや歯間ブラシを使って、口のなかを手入れしている者、1年に1回は、歯科医院で歯石除去や歯の清掃などの予防処置を受けている者の割合は増加傾向にある。

【今後の取組】

- ① 乳幼児期において、乳幼児の歯の健康や口腔機能の発達を促す食習慣、口腔機能獲得に影響を及ぼす習癖等の改善に関する歯科保健指導等の充実を図る。
- ② 学童期・思春期において、個人に応じた効果的な歯みがきや食生活等の歯科保健指導を行うとともに、定期的な歯科検診受診やフッ化物洗口等のフッ化物応用を促進する。
- ③ 青年期・壮年期・高齢期において、歯周病検診の受診勧奨及び「かかりつけ歯科医」による口腔ケアが重要であることの普及啓発を行う。また、歯周病と全身疾患との関係性や口腔機能の維持向上等に関する知識の普及啓発を行う。

(7) 生活習慣病の発症予防と重症化予防

指標		対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
自分の適正体重を知っている人の割合		成人男性	100%	50.4%	51.2%	B
肥満者(BMI $\geq$ 25.0)の割合		20～69 歳男性	15%以下	29.3%	32.8%	D
		40～69 歳女性	16%以下	22.6%	20.1%	B
特定健康診査受診率		40～74 歳	60%	53.2%	58.8%	B
特定保健指導実施率		40～74 歳	60%	43.2%	36.6%	D
メタボリックシンドローム該当者		40～74 歳男性	23%以下	25.8%	29.9%	D
		40～74 歳女性	9%以下	10.7%	12.4%	D
メタボリックシンドローム予備軍		40～74 歳男性	16%以下	18.5%	18.6%	C
		40～74 歳女性	7%以下	8.8%	7.9%	B
糖尿病有病者		40～74 歳	8%以下	8.9%	11.9%	D
高血圧症有病者		40～74 歳	38%以下	42.3%	45.6%	C
脂質異常症有病者		40～74 歳	18%以下	20.1%	27.9%	D
検診の受診率	胃がん検診	40～69 歳	40%以上	21.2%(6.9%)	3.3%	D
	肺がん検診		50%以上	45.0%(15.7%)	9.3%	D
	大腸がん検診		40%以上	38.4%(13.9%)	7.7%	D
	子宮がん検診	20～69 歳女性	50%以上	39.2%(15.8%)	14.5%	D
	乳がん検診	40～69 歳女性	50%以上	43.6%(26.9%)	14.8%	D
検診の精密検査 受診率	胃がん検診	がん検診受診者 で要精検と指摘 された市民	100%	93.5%	95.6%	C
	肺がん検診			90.4%	89.2%	C
	大腸がん検診			84.9%	89.4%	C
	子宮がん検診			86.0%	95.3%	B
	乳がん検診			95.0%	97.7%	C

※検診の受診率:策定時ベースライン値について、平成27年度から受診率の算定方法について、がん検診の対象者数(分母)に、職域等で受診機会のある人も含め、各がん検診の対象年齢の全住民を計上することとなったため、前回値(平成26年度)の受診率とは算出上の差違が生じている。そのため、()内に平成27年度受診率を記載、評価については、平成27年度受診率との比較とした。

【「生活習慣病の発症予防と重症化予防」の現状と課題】

- 適正体重の維持について、成人の「自分の適正体重を知っている人の割合」は計画策定時から大きな変化がなく、若干の悪化傾向が見られる。また、「肥満者(BMI $\geq$ 25.0)の割合」について、40～69歳女性は改善傾向が見られるが、20～69歳男性は、計画策定時から悪化している。

- 40～74歳の「特定健康診査受診率」は、改善の傾向が見られるが、目標達成には至っていない。また「特定保健指導実施率」は計画策定時から悪化の傾向となっている。
- 生活習慣病について、「高血圧有病者」が最も多い。また、「糖尿病有病者」、「脂質異常症有病者」は、悪化の傾向が見られる。
- 生活習慣病について、40～74歳の男性・女性とも「メタボリックシンドローム該当者」は悪化傾向が見られる一方、「メタボリックシンドローム予備軍」は、女性は改善傾向が見られるが、男性は計画策定時と大きな変化はない。「糖尿病有病者」、「高血圧症有病者」、「脂質異常症有病者」は、計画策定時から大きな変化がない、もしくは悪化の傾向が見られる。
- 検診の受診率について、がん検診の対象者数（分母）が、平成27年度から職域等で受診機会のある人も含め、各がん検診の対象年齢の全住民を計上することとなったため、前回値（平成26年度）の受診率との比較が困難である。また、がん検診受診者で要精検と指摘された市民の検診の精密検査受診率は、「子宮がん検診」で改善傾向が見られるが、その他は計画策定時から大きな変化が見られない。

【今後の取組】

- ① 全てのライフステージにおいて、肥満が健康に及ぼす影響や適正体重を維持するための具体的な方法（食事量・身体活動や運動量・日常生活の過ごし方等）を啓発する。
- ② 血圧の適正管理が脳卒中・心筋梗塞・腎機能障害の予防になる事を理解してもらい、家庭血圧の測定や記録の有効性について普及啓発に取り組む。
- ③ 生活習慣病の重症化予防のために、効果的かつ継続的な保健指導を実施する。特に未治療者や治療中断者への働きかけを強化する。血圧や血管、心臓など体の仕組みを知ってもらい、市民自身が体の事を大切と思ってもらえるよう保健師、栄養士が支援する。
- ④ 脳卒中、高血圧、糖尿病、CKD等に関する正しい知識の普及啓発を図る。
- ⑤ 喫煙（受動喫煙を含む）、過剰な飲酒、低身体活動、野菜・果物不足等のがんや生活習慣病のリスクを高める要因とされる生活習慣の改善に向けた普及啓発を行う。
- ⑥ 医療機関との連携強化を図り、生活習慣病発症及び重症化予防に取り組む。
- ⑦ がんの早期発見やがん検診の受診率向上に向け、健康教室、健康相談、広報紙、メディア等により、がんの予防や検診の必要性について啓発する。

(8) 次世代の健康

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
妊娠 11 週以内の届出率	妊婦	増加傾向へ	86.6%	83.4%	D
全出生数中の低出生体重児の割合	出生児	減少傾向へ	8.5%	6.9%	B
全出生数中の極低出生体重児の割合	出生児	減少傾向へ	0.60%	0.65%	C
おっぱいで育てる母親の割合 (6か月時母乳のみ)	母親	増加傾向へ	37.6%	30.0%	D
健康診査受診率	1歳6か月児	増加傾向へ	96.6%	97.4%	C
	3歳6か月児	増加傾向へ	91.5%	96.4%	A
予防接種接種率	ヒブ	増加傾向へ	93.3%	96.8%	A
	小児肺炎球菌	増加傾向へ	92.9%	94.9%	B
	四種混合	増加傾向へ	97.5%	99.6%	A
	BCG	増加傾向へ	96.7%	99.3%	A
	水痘	増加傾向へ	54.5%	98.6%	A
	MR(一期)	増加傾向へ	98.1%	97.2%	A
	MR(二期)	95%以上	93.9%	95.8%	B
	日本脳炎	増加傾向へ	91.0%	101.6%	A
	二種混合	増加傾向へ	76.4%	85.0%	A
かかりつけの小児科医を持つ親の割合	保護者	100%	92.2%	83.7%	D
育児はすばらしい仕事であり、自分の成長にもなると思う人の割合	保護者	増加傾向へ	91.2%	94.3%	B
よく育児に参加する父親の割合	父親	増加傾向へ	54.3%	62.7%	A
子育てに自信が持てない母親の割合	母親	減少傾向へ	8.2%	9.9%	D
自分が子どもを虐待していることがあると思う母親の割合	母親	減少傾向へ	6.7%	4.9%	B
父親が子どもを虐待していることがあると思う母親の割合	母親	減少傾向へ	0.6%	1.2%	D
生後6か月未満の新生児・乳児にうつぶせ寝をさせている母親の割合	母親	0%	17.0%	—	E
乳幼児突然死症候群(SIDS)から赤ちゃんを守るために気をつけることを知らない保護者の割合	保護者	0%	15.4%	13.8%	B

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
子どもの事故防止対策を実施している家庭の割合	保護者	100%	92.6%	88.9%	D
心肺蘇生法を知っている母親の割合	母親	100%	78.6%	81.7%	B
休日・夜間に対応可能な医療機関を知っている保護者の割合	保護者	100%	86.1%	90.2%	B
肥満児の割合	小学4年生	6%以下	9.2%	11.4%	D
	中学1年生	5%以下	7.7%	5.9%	B
標準体重以下であるにもかかわらず「自分は太っている」と思っている生徒の割合	中学3年生女子	減少傾向へ	36.2%	39.4%	D
現在、自分が健康だと思っている児童・生徒の割合	小学6年生	増加傾向へ	82.5%	74.3%	D
	中学3年生	増加傾向へ	81.0%	77.8%	D
	高校3年生	増加傾向へ	77.6%	82.5%	B
自分が生まれてきてよかったと思っている生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	77.2%	79.7%	A
	高校3年生	増加傾向へ	93.4%	83.4%	D
自分のことを大事に思っている生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	70.3%	70.8%	C
	高校3年生	増加傾向へ	69.7%	79.2%	A
自分の生き方を自分で決定できると感じる生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	64.3%	65.3%	B
	高校3年生	増加傾向へ	71.5%	76.6%	B
現在、自分のこころや身体の変化に不安がある児童・生徒の割合	小学6年生	減少傾向へ	14.8%	15.3%	C
	中学3年生	減少傾向へ	16.6%	16.9%	C
	高校3年生	減少傾向へ	27.1%	19.6%	B
性感染症を知っている生徒の割合	中学3年生	増加傾向へ	77.2%	91.9%	A
	高校3年生	増加傾向へ	93.4%	95.8%	B
薬物乱用の有害性を知っている生徒の割合	中学3年生	100%	93.6%	95.6%	B
	高校3年生	100%	95.2%	92.7%	D
10代の人工妊娠中絶実施率 ※令和元年度データ	10代女性	減少傾向へ	3.7%	2.8%	B

※BCGについては、厚労省の「結核に関する特定感染症予防指針」において、接種率目標を95%以上と定められている。

※麻しん風しん定期接種については、厚労省の「麻しんに関する特定感染症予防指針」「風しんに関する特定感染症予防指針」において、接種率目標95%以上と定められている。

※日本脳炎予防接種の実施率が100%を超えているのは、2005～2009年度にかけて日本脳炎ワクチンの積極的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を逸した世代が定期接種の特例対象となっているため。

【「次世代の健康」の現状と課題】

- 「妊娠11週以内の届出率」については、減少傾向にある。
- 「全出生数中の極低出生体重児の割合」は変わっていないが、「全出生数中の低出生体重児の割合」は改善の傾向が見られる。
- 「おっぱいで育てる母親の割合（6か月時母乳のみ）」は、計画策定時と大きく変わっていないが、減少が見られる。
- 「健康診査受診率」は、1歳6か月児は計画策定時と変わっていないが、3歳6か月児は改善の傾向が見られる。
- また、「予防接種接種率」は、ほぼすべてで改善傾向が見られ、特に「ヒブ」、「四種混合」、「BCG」、「水痘」、「MR（一期）」、「日本脳炎」、「二種混合」は目標を達成している。
- 「かかりつけの小児科医を持つ親の割合」は減少傾向にある。
- 育児について、「育児は素晴らしい仕事であり、自分の成長にもなると思う人の割合」は改善傾向が見られる。
- 「よく育児に参加する父親の割合」は大きく増加している。子育て世代包括支援センターで妊娠期からの育児参加に向けた教室を開催することで、父親の育児への関心が強まり、実際の育児参加の機会に繋がっているのではないかと考えられる。
- 「子育てに自信が持てない母親の割合」が増加しているが、妊娠期から育児期までの切れ目のない支援体制を構築するなど、相談しやすい環境を整えている。
- 「自分が子どもを虐待していることがあると思う母親の割合」は、計画策定時から改善傾向が見られるが、「父親が子どもを虐待していることがあると思う母親の割合」は増加傾向となっている。
- 「乳幼児突然死症候群（SIDS）から赤ちゃんを守るために気をつけることを知らない保護者の割合」改善傾向が見られる。
- 「子どもの事故防止対策を実施している家庭の割合」は、計画策定時から3.7%減少している。また「心肺蘇生法を知っている母親の割合」、「休日・夜間に対応可能な医療機関を知っている保護者の割合」は増加している。
- 学童期・思春期の「肥満児の割合」について、小学4年生は2.2%増加しており、中学1年生は1.8%減少している。また、中学3年生女子の「標準体重以下であるにもかかわらず『自分は太っている』と思っている生徒の割合」は若干増加している。
- 学童期・思春期の「現在、自分が健康だと思っている児童・生徒の割合」について、小学6年生は8.2%、中学3年生は3.2%減少しているが、高校3年生は増加しているため、やはり、乳幼児期からの教育が必要と考えられる。
- 学童期・思春期における自己肯定感について、「自分が生まれてきてよかったと思っている生徒の割合」は、中学3年生が3.1%減少し、高校3年生は計画策定時から大きな変化が見られない。
- 「自分のことを大事に思っている生徒の割合」は、中学3年生は計画策定時と変わらないが、高校3年生は9.5%増加している。また、「自分の生き方を自分で決定できると感じる生徒の割合」は、中学3年生は計画策定時から大きな変化が見られないが、高校3年生は改善の傾向が見られる。
- 「現在、自分のこころや身体の変化に不安がある児童・生徒の割合」は、小学6年生、

中学3年生は計画策定時から大きな変化が見られないが、高校3年生は減少している。

- 「性感染症を知っている生徒の割合」は中学3年生が14.7%、高校3年生が2.4%増加している。
- 「薬物乱用の有害性を知っている生徒の割合」は、中学3年生は2%増加しているが、高校3年生は2.5%減少している。
- 「10代の人工妊娠中絶実施率」は0.9%減少しており、これらのことから、カンガルー事業や思春期教育を行ってきた成果が見られる。

【今後の取組】

- ① 虐待の早期発見のために、乳幼児健診の未受診者を把握し、受診勧奨を行うとともに、乳幼児健診を受診しやすい体制づくりを進める。
- ② 妊娠・出産・子育てに関する様々な機会を通じた正しい情報を提供していく。
- ③ 医療機関等と連携した予防接種受診に向けた取組を行う。
- ④ 産後うつなどのハイリスク者や育児不安を抱える母親を支え、次世代の健康を守り育てていくために、地域・学校・医療機関や子育て世代包括支援センター等の関係機関と連携した、妊娠期から育児期までの切れ目のない支援体制づくりを進める。
- ⑤ 乳幼児健診等で子どもの発達障害を早期発見し、子どもの発達特性に応じた支援を各関係機関とともに行う。
- ⑥ 子育ては、一人で行うものではないことを周知し、育てにくさを感じる親とその子どもへの各種母子保健事業等の支援の充実を図る。
- ⑦ 学童期から思春期の児童生徒が、自己肯定感を獲得することが、その後の人生に大きな影響を与えることになることの重要性とその方法について知識の普及啓発を行う。
- ⑧ 乳幼児期・学童期の肥満や、この時期に獲得された食習慣が高血圧等の生活習慣病発症リスクにつながることを周知し、適切な食習慣や生活習慣が獲得できるよう支援する。
- ⑨ 乳幼児期からの規則正しい生活習慣の確立に向けて、各種母子保健事業等での教育の充実を図り、保護者に対して正しい知識を伝え、支援していく。

(9) 高齢世代の健康

指標	対象	目標 (令和7年度)	策定時ベース ライン値 (平成26年度)	中間評価 (直近値) (令和2年度)	評価
週1日以上外出する高齢者の割合	65歳以上男性	増加傾向	91.6%	91.2%	C
	65歳以上女性	増加傾向	94.7%	94.4%	C
週3日以上外出する高齢者の割合	65歳以上男性	75%以上	68.0%	65.2%	C
	65歳以上女性	77%以上	69.4%	73.5%	B
地域の行事や活動(自治会、高齢者クラブ、趣味の活動など)に参加している人の割合	60歳以上男性	67%以上	60.9%	57.6%	C
	60歳以上女性	61%以上	53.9%	52.4%	C
生きがいを感じている、または多少感じている高齢者の割合	65歳以上	86%以上	74.8%	72.9%	C

【「高齢世代の健康」の現状と課題】

- 生活機能の機能低下の防止に関して、「週1日以上外出する人の割合」は、計画策定時より若干減少しているが、大きな変化はみられない。また、「週3日以上外出する人の割合」は、男性が若干の減少、女性は増加しており、いずれも目標を達成していない。
- 高齢者の生きがいづくりや社会参加などへの取組について、「地域の行事や活動(自治会、高齢者クラブ、趣味の活動など)に参加している人の割合」、「生きがいを感じている、または多少感じている人の割合」は、計画策定時から大きな変化はない。

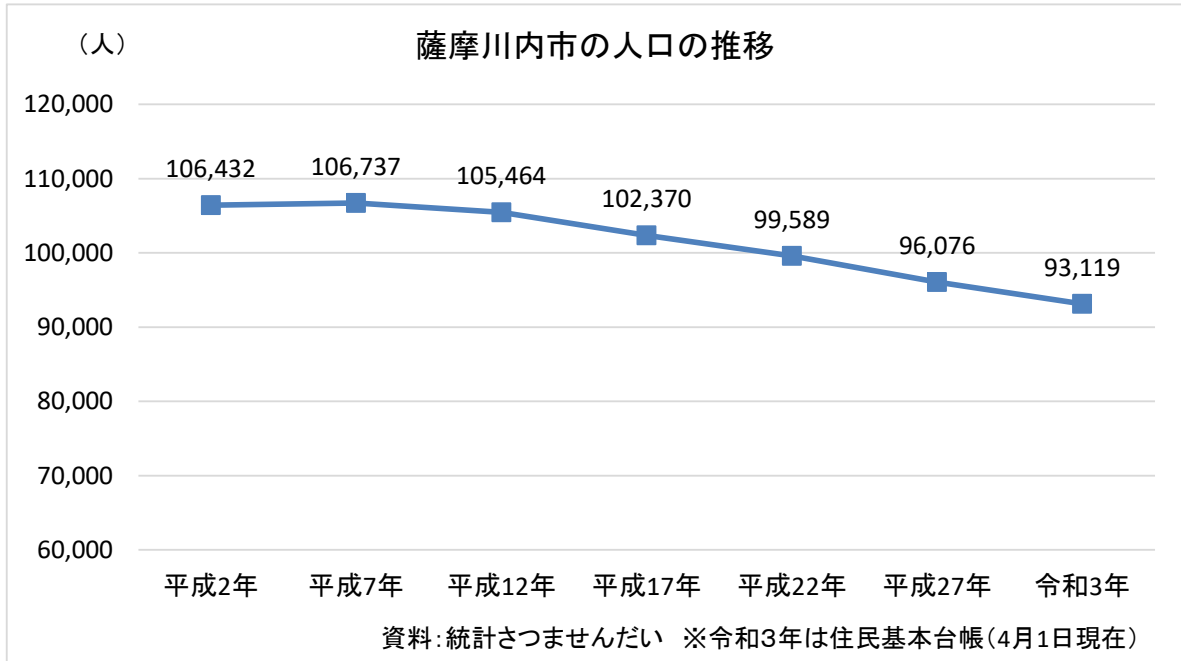
【今後の取組】

- ① 生活習慣の改善が健康につながるということを、各種教室等など高齢者が集う場で啓発するとともに、地域で行われている介護予防教室等への参加を促進する。
- ② 高齢者が主体的に健康維持や介護予防、生きがいづくりや社会参加などに取り組めるような環境を整備する。

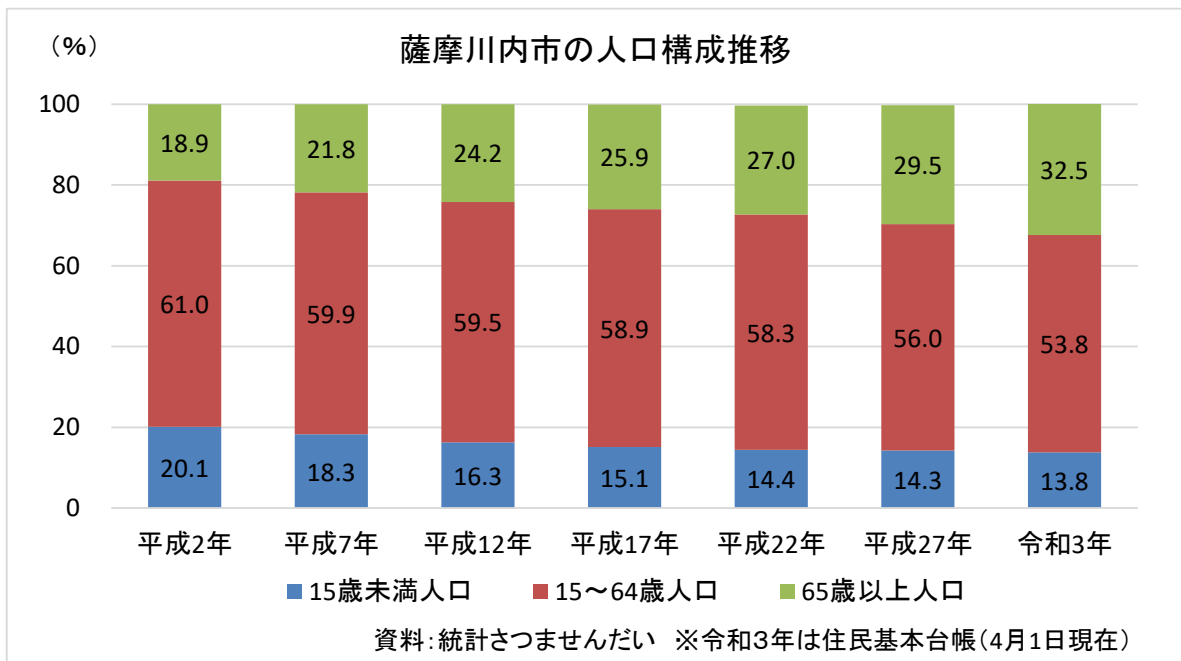
参考資料

1 人口等

■薩摩川内市の人口の推移

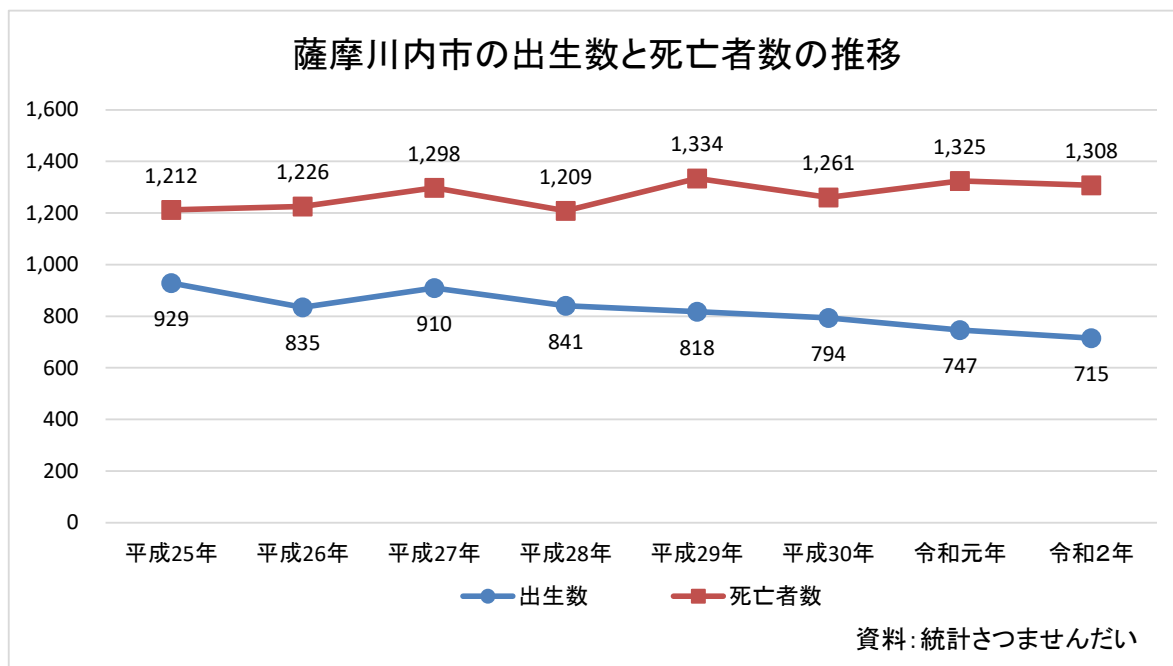


■薩摩川内市の人口構成の推移

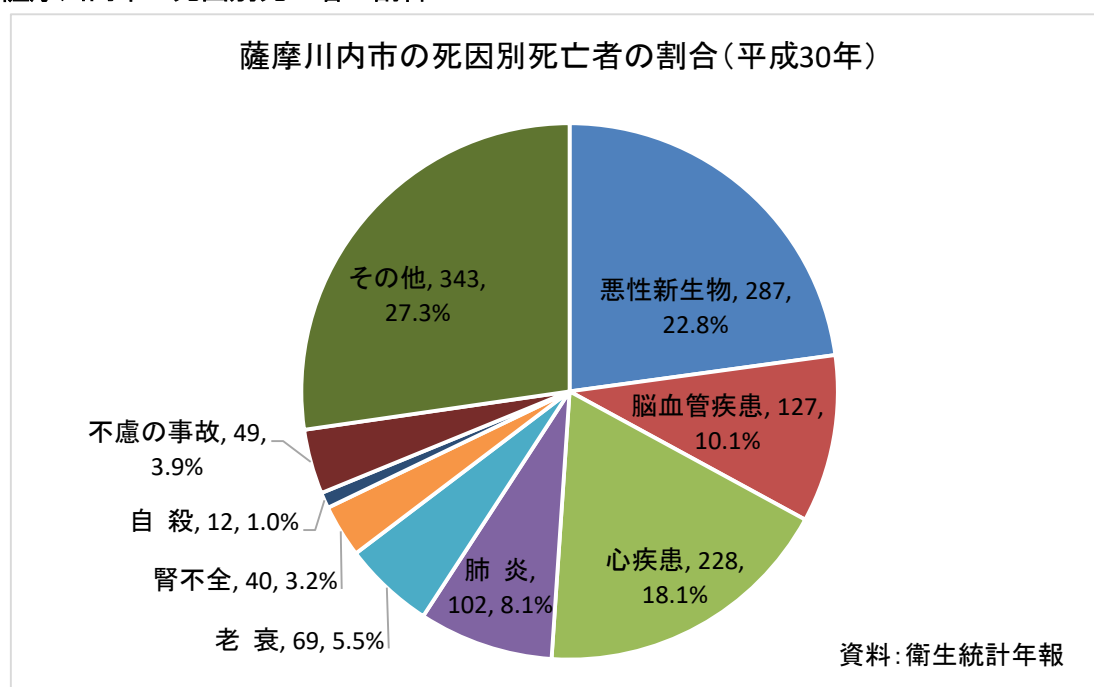


※数値は各年9月末時点(令和2年度のみ5月末時点)

■薩摩川内市の出生数と死亡者数の推移



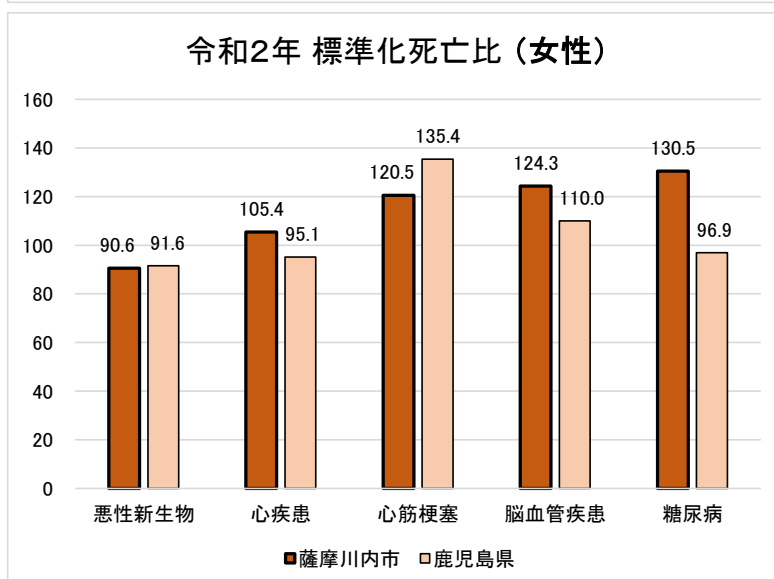
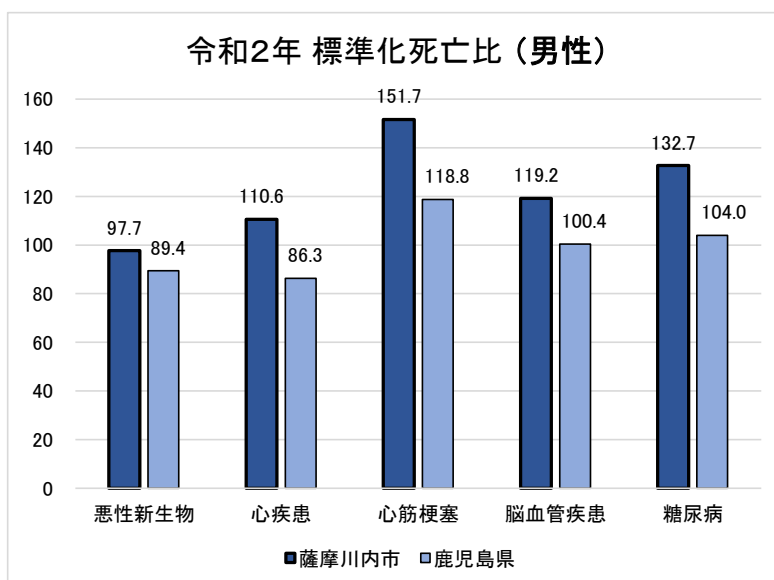
■薩摩川内市の死因別死亡者の割合



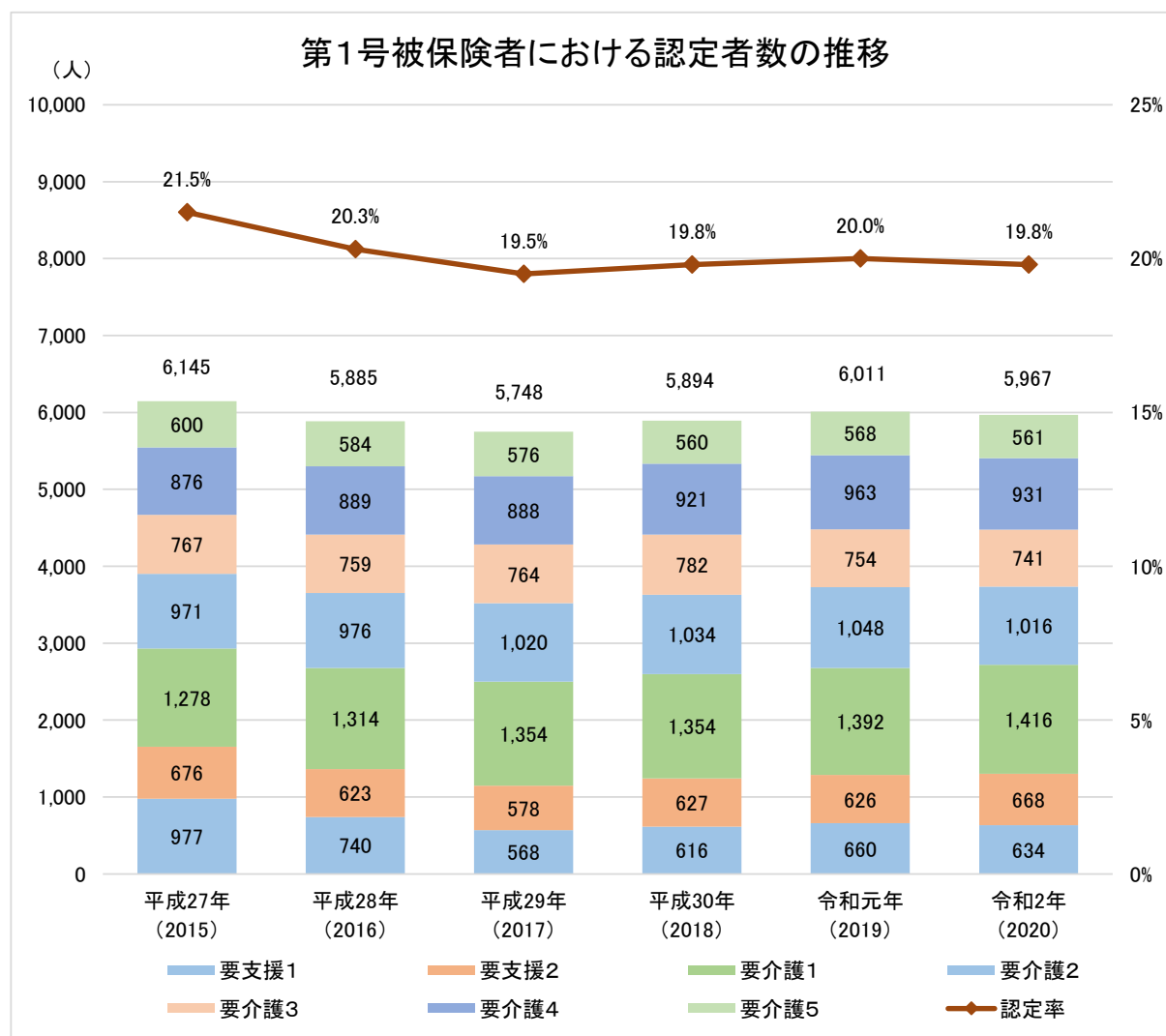
2 標準化死亡比(SMR)

■全国水準から比較した薩摩川内市の主要死因死亡率(令和2年)

区 分		薩摩川内市	全国	鹿児島県	川薩保健所管内
悪性新生物	男性	97.7	100.0	89.4	94.6
	女性	90.6	100.0	91.6	89.3
心疾患	男性	110.6	100.0	86.3	110.2
	女性	105.4	100.0	95.1	98.4
心筋梗塞	男性	151.7	100.0	118.8	166.6
	女性	120.5	100.0	135.4	137.7
脳血管疾患	男性	119.2	100.0	100.4	110.4
	女性	124.3	100.0	110.0	119.3
糖尿病	男性	132.7	100.0	104.0	124.1
	女性	130.5	100.0	96.9	121.2



3 介護認定率



※数値は各年9月末時点（令和2年のみ5月末時点）

■要介護者のうち下記の疾患治療者（令和元年度）（単位：％）

区 分	割 合
脳血管疾患	49.1
心不全	46.2
虚血性心疾患	43.6

※E表：「健診・医療・介護データの一体的な分析からの重症化予防・介護予防対象者を把握する」より

4 長寿健診

(単位:人、%)

区分		人数	受診率
長寿健診受診率		6,516	40.5
健診有所見者数	高血圧	2,159	33.1
	尿蛋白	820	12.6
	EGFR	814	12.5
	心房細動	287	4.4
	肥満	1,799	27.6
健診有所見者実人数		692	4.3

5 各事業の実績

※令和元年度末及び令和2年度の実績については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための事業中止・延期・実施方法の変更、外出自粛や受診控え等の影響を受けている可能性がある。

(1) 母子保健事業

(ア) 不妊治療費等助成事業(コウノトリ支援事業)

(単位:人、組)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
申請者数(延)	214	197	197	236	254
申請実夫婦数	130	114	121	158	174
新規申請夫婦数	67	45	61	86	89

(イ) 母子健康手帳交付

(単位:人、%)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
交付者数	819	792	801	745	765
交付時未婚者数	93	80	67	93	75
未婚者数割合	11.4	10.1	8.4	12.5	9.8
若年妊婦(10代)	21	19	11	11	9
若年妊婦割合	2.6	2.4	1.4	1.5	1.2
産後交付者数	1	0	0	1	0

(ウ) 妊婦健康診査

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
公費負担回数	14	14	14	14	14
受診者数(実)	1,261	1,231	1,227	1,144	1,162
受診者数(延)	9,910	9,609	9,517	8,875	9,117

(エ) 産地地域妊産婦健康診査旅費助成事業(こしき子宝支援事業)

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
申請者数(実)	19	33	21	17	12
旅費申請回数(延)	176	294	184	150	109
交通費・宿泊費等	10	55	64	50	20
緊急移送費等	1	1	0	0	0
産支所妊娠届出数	29	18	19	17	12

※令和元年度から産婦健康診査に係る旅費助成を追加

(オ) 妊婦歯科健康診査

(単位:人、%)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
受診券発行者数	862	827	845	780	806
受診者数	310	326	331	317	323
受診率	36.0	39.4	39.2	40.6	40.1

(力) 産婦・新生児訪問指導

(単位:人)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
訪問件数	実	458	405	387	405	339
	延	570	480	436	452	389

(キ) 新生児聴覚検査助成事業

(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
償還払申請件数	432	589	79	12
受診券による受診件数	—	—	673	667

(ク) 産婦健康診査

(単位:人)

		令和元年度	令和2年度
受診者数	産後2週間	677	685
	産後1か月	706	718
支援を必要とする者(延件数)		135	131
産科医療機関からの 妊産婦支援情報提供件数		49	89

(ケ) 産後うつ対策

(単位:人、%)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施者数	344	332	321	315	293
初回陽性	25	31	28	12	19
2回目陽性	7	11	4	1	2
把握率	7.3	9.3	8.7	3.8	6.5

(コ) 短期入所型産後ケア事業

(単位:人、日)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数	10	11	7	5	7
利用延日数	54	64	57	32	46

(サ) 産後ケア応援券交付事業

(単位:人、枚)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
交付者数	721	357	362
利用者数	396	360	313
利用枚数	1,836	1,380	1,357

※開始年度(平成30年度)は、既母子健康手帳交付者に追加交付実施。

(シ) 未熟児養育医療給付

(単位:件)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
申請者数	33	34	44	31	32

(ス)母子保健推進員活動

(単位:人)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
推進員数		51	49	49	49	49
訪問 件数	妊婦	670	608	618	544	534
	乳児	676	588	570	503	505

(セ)こんにちは赤ちゃん事業(生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業)

(単位:人、%)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
対象者数		855	810	781	723	706
母子保健 推進員分	訪問数	669	588	570	503	496
	訪問割合	78.2	72.6	73.0	69.3	70.3
保健師分	訪問数	108	151	128	140	154
	訪問割合	12.6	18.6	16.4	19.4	21.8
4か月まで の訪問	訪問数合計	777	739	698	643	650
	把握率	90.9	91.2	89.4	88.9	92.1
新生児訪問と同時実施(再掲)		66	54	65	103	84
保健師等把握数 (4か月以降も含む)		78	71	83	75	70
把握率		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(ソ)母子相談

(単位:人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
定例	200	246	157	237	176	248	140	189	150	178
随時	948	1,284	835	1,048	807	1,021	699	824	786	924
合計	1,148	1,580	992	1,285	983	1,261	839	1013	936	1102

(タ) 乳幼児健康診査

(単位:人、%)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
3 か月児	対象者	852	826	791	756	730
	受診者	840	812	767	746	719
	受診率	98.6	98.3	97.0	98.7	98.5
6 か月児	対象者	877	830	805	774	737
	受診者	864	811	793	761	727
	受診率	98.5	97.7	98.5	98.3	98.6
11～13 か 月 児	対象者	877	832	784	804	734
	受診者	823	777	727	748	701
	受診率	93.8	93.4	92.7	93.0	95.0
1 歳 6 か 月 児	対象者	878	861	817	775	799
	受診者	857	839	795	763	778
	受診率	97.6	97.4	97.3	98.5	97.4
2 歳 児	対象者	882	869	860	786	786
	受診者	824	824	812	739	757
	受診率	93.4	94.8	94.4	94.0	96.3
3 歳 児	対象者	902	899	852	827	826
	受診者	866	858	825	797	796
	受診率	96.0	95.4	96.8	96.4	96.4

(チ) 訪問指導

(単位:人)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
妊 産 婦		219	504	609	541	518
乳 児		176	147	165	176	334
幼 児		116	154	95	86	95
未 熟 児 (再 掲)		(28)	(29)	(18)	(15)	(21)
そ の 他		74	118	50	50	60

(ツ) 親子教室 (豆の木クラブ)

(単位:人)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
参 加 者 数 (実)		61	45	45	44	22
参 加 者 数 (延)		232	208	227	162	73

(テ) 発達相談

(単位:人、回)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
相 談 者 数 (実)		135	142	175	153	165
相 談 者 数 (延)		142	149	178	160	167
実 施 回 数		64	65	69	72	76

(ト) 幼稚園・保育園連絡会

(単位:人、回)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
検 討 者 数 (延)	770	624	789	1,056	674
実 施 回 数	92	87	95	98	74

(ナ) 保健所・障害・社会福祉課連絡会

(単位:人、回)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
検 討 者 数 (実)	97	78	53	66	67
検 討 者 数 (延)	195	138	114	160	146

(ニ) 育児講演会

(単位:人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度	平成 30 年度	令和2年度
参 加 者 数	148	56	70	80	—

※平成25年度は対象を分けて2回実施。平成27年度から隔年開催。令和2年度より事業中止。

子育てポータルサイトや母子手帳アプリを活用し育児に関する正しい情報提供に変更。

(ヌ) 離乳食教室

(単位:人、回)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
参 加 者 数 (実)	138	115	136	125	61
実 施 回 数	12	12	12	11	9

(ネ) 歯科健康教育・相談

(単位:人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
離 乳 食 教 室	138	—	—	—	—
乳 児 健 康 診 査	861	807	794	695	—
相 談	—	—	—	—	111

(ノ) 幼児歯科健康診査

(単位:%、本)

	むし歯有病者率					一人平均むし歯数				
	H28	H29	H30	R1	R2	H28	H29	H30	R1	R2
1 歳 6 か月児	2.33	1.67	1.38	0.92	1.03	0.07	0.05	0.05	0.03	0.02
2 歳 児	10.68	9.47	8.37	6.36	4.10	0.29	0.29	0.24	0.18	0.14
3 歳 児	20.67	21.33	22.21	18.95	19.60	0.72	0.75	0.79	0.69	0.67

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためフッ化物歯面塗布を中止。

(ハ) 幼稚園・保育園等訪問歯科指導

(単位:園、回、人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
訪 問 園 数	40	41	42	40	39
訪 問 回 数 (延)	75	68	72	70	39
参 加 者 数 (延)	3,512	3,633	3,468	3,398	2,434

(ヒ)フツ化物洗口を実施する幼稚園・保育園等の数

(単位:園)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
実 施 園 数	20	20	21	21	22

(フ) カンガルー事業

(単位:回、人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和2年度	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
児 童 ・ 生 徒	26	940	18	977	23	1,004	16	823	24	947
保 護 者 参 観	21	222	15	178	19	185	13	152	18	193

(ヘ) 思春期教育

(単位:回、人)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和2年度	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
児 童 ・ 生 徒	12	1,352	15	1,325	14	1,424	16	1,484	16	1,517
保 護 者 参 観	2	7	2	15	1	4	4	9	2	3

(2) 子育て世代包括支援センター事業

(ア)保健師・助産師・臨床心理士による相談支援

(単位:人、回)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
相 談	面 接	320	220	396	889
	電 話	12	292	382	983
	訪 問	19	23	260	322
1～2か月児 相談会	回 数	—	28	22	34
	参 加 者 数	—	277	356	128

(イ) 支援の必要な対象者の把握とプラン作成

(単位:人)

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
プラン 作成者数	実人数	299	540	283	575	425
	延べ人数	351	540	283	806	510

(ウ) 教室等

(単位:回、人)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
まみーずサロン	回 数	20	36	16	3
	参加者数	46	87	114	10
プレパパママ 教室	回 数	6	6	11	32
	参加者数	92	130	178	96
母子健康手帳 交付時教育	回 数	—	44	46	0
	参加者数	—	508	510	0
そ の 他 教 育	回 数	6	3	4	4
	参加者数	83	40	61	43

(エ) 情報発信

- ・ 子育てポータルサイト「さつませんだいこそだてさぽーとネット」

母子保健、福祉、その他子育てに関する情報を一元化したスマートフォン仕様のポータルサイトを運営し、妊娠・出産・子育てに関する情報を「コラム」、教室等の内容を「レポート」として配信。

- ・ 母子手帳アプリ「さつませんだい子育てナビBy 母子モ」

妊娠中や子育ての記録を写真と一緒に保存する電子母子手帳機能、予防接種や乳幼児健診のリマインダー機能を有し、子育てポータルサイトとリンクしたアプリを運営。

(3) 予防接種事業

(ア) 定期予防接種

(単位: %)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
不活化ポリオ	—	—	70.0	50.0	—
四種混合	97.8	95.8	98.2	98.9	99.6
三種混合	5.0	—	—	—	—
二種混合	67.5	80.3	82.5	83.6	85.0
麻疹・風疹混合(1期)	98.6	89.6	93.4	98.4	97.2
麻疹・風疹混合(2期)	92.8	98.8	84.5	91.5	95.9
日本脳炎	79.0	102.7	134.9	106.2	101.6
BCG	99.4	96.5	99.8	97.1	99.3
ヒブ	98.0	95.3	95.5	95.9	96.8
小児用肺炎球菌	98.2	95.3	95.9	97.8	94.9
B型肝炎	69.3	95.6	96.8	95.7	94.4
HPV	—	—	1.4	2.3	18.8
水痘	94.5	88.7	88.7	96.6	98.6
ロタウイルス	—	—	—	—	88.2
高齢者インフルエンザ	60.3	62.4	61.8	64.4	72.9
高齢者肺炎球菌	41.0	43.2	41.3	17.9	17.5

※ロタウイルスの令和2年度接種率については任意予防接種を含めて算出

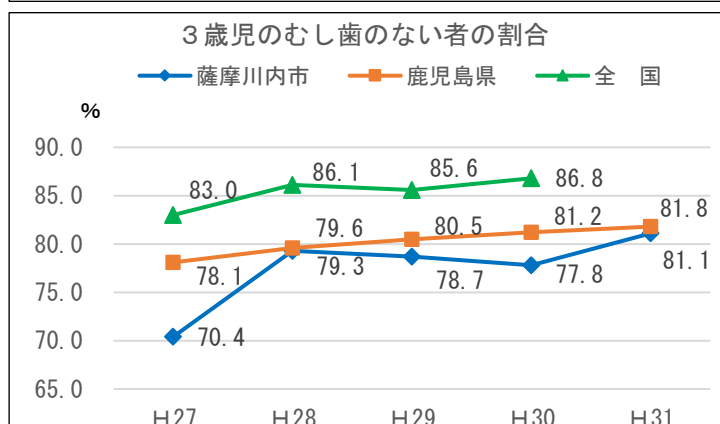
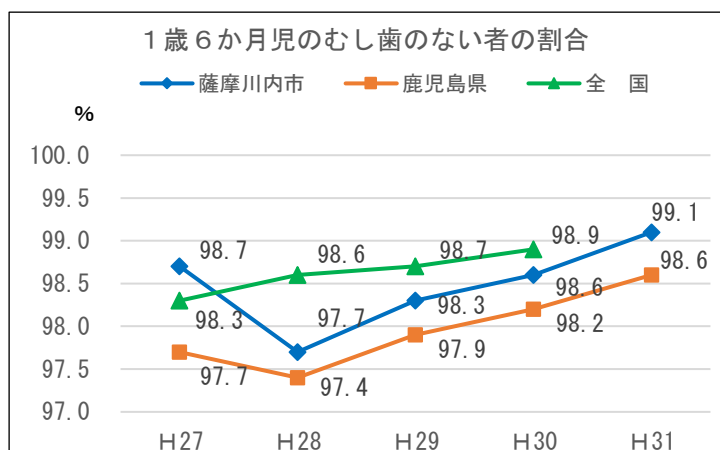
(イ) 任意予防接種 (接種料一部助成)

(単位: 人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
子どもインフルエンザ	—	10,995	11,555	14,181	15,293
おたふくかぜ	1,094	1,061	930	1,024	1,013
ロタウイルス	439	1,054	1,048	1,074	760
風しん	抗体価検査	4	8	54	13
	含有ワクチン	129	166	274	185

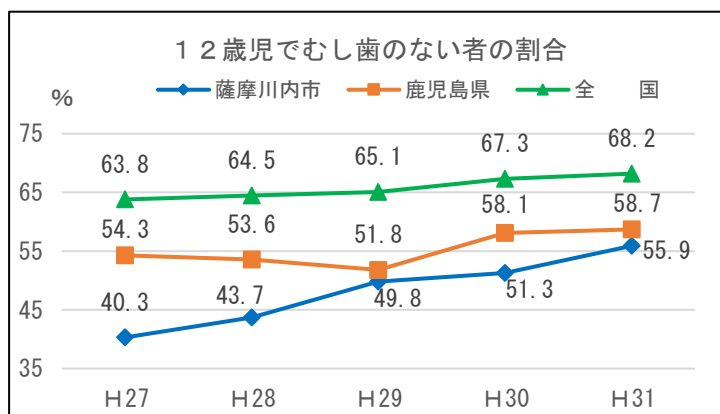
※ロタウイルスは令和2年10月から定期予防接種へ変更

(4) 歯科保健事業



	1歳6か月児		3歳児	
	H26年度	R2年度	H26年度	R2年度
おやつの時間を決めて与えている保護者の割合	68.5%	75.6%	74.2%	74.0%
仕上げみがきをしている保護者の割合	96.5%	97.6%	98.2%	99.0%
フッ化物商品を使用している子どもの割合	48.0%	51.0%	65.0%	72.0%
歯科医院で定期検査や指導等を受けている子どもの割合	8.2%	12.5%	37.4%	40.0%
歯科医院で定期検査や指導等を受けている保護者の割合	25.0%	32.4%	31.6%	34.7%
噛みごたえのある食べものを嫌がる子どもの割合	7.4%	11.0%	5.7%	8.2%

※ 幼児歯科健康診査問診結果



	中学 1 年生	
	H26 年度	R2 年度
定期的な歯科健診(管理)を受けるために歯科医院に行く者の割合	32.3%	45.2%
自分の口の状態にあった歯みがきの方法を個別に教えてもらったことがある者の割合	37.5%	43.3%

※令和 2 年度健康づくり計画策定事前調査（中学 1 年生アンケート）結果

	H26 年度	R2 年度
1日に1回は、時間をかけて丁寧に歯や入れ歯をみがく者の割合	77.5%	82.3%
デンタルフロスや歯間ブラシを使って、口のなかを手入れしている者の割合	39.6%	47.7%
1年に1回は、歯科医院で歯石除去や歯の清掃などの予防処置を受けている者の割合	32.0%	38.9%

※令和 2 年度健康づくり計画策定事前調査（薩摩川内市生活習慣）結果

(5) 健康増進事業

(ア) 各種がん検診等受診状況

(単位: 人、%)

			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
胃がん	40歳以上男女	対象者数	58,609	58,155	58,045	57,796	57,598
		受診者数	3,530	3,425	3,077	2,759	2,224
		受診率	6.0	5.9	5.3	4.8	3.9
		要精検者数	344	344	313	322	194
		精密検診受診率	94.5	93.0	81.2	95.6	
		がん発見者数	8	5	1	2	
子宮がん	20歳以上女性	対象者数	41,180	40,601	40,324	39,892	39,490
		受診者数	5,840	5,965	5,746	5,785	5,552
		受診率	14.2	14.7	14.2	14.5	14.1
		要精検者数	60	53	44	43	57
		精密検診受診率	95.0	98.1	95.5	95.3	
		がん発見者数	0	0	0	1	
乳がん	40歳以上女性	対象者数	31,719	31,453	31,373	31,199	31,014
		受診者数	4,506	4,563	4,226	4,233	4,009
		受診率	14.2	14.5	13.5	13.6	12.9
		要精検者数	250	263	227	175	208
		精密検診受診率	96.8	94.0	97.8	97.7	
		がん発見者数	9	8	7	6	
	※ 30歳代女性	対象者数	—	—	—	—	—
		受診者数	—	—	—	—	—
		受診率	—	—	—	—	—
		要精検者数	—	—	—	—	—
		精密検診受診	—	—	—	—	—
		がん発見者数	—	—	—	—	—
肺がん	40歳以上男女	対象者数	58,609	58,155	58,045	57,996	57,598
		受診者数	11,922	11,490	10,712	9,463	9,295
		受診率	20.3	19.8	18.5	16.4	16.1
		要精検者数	585	525	291	749	488
		精密検診受診率	93.7	84.1	95.0	87.4	
		がん発見者数	10	21	11	0	
大腸がん	40歳以上男女	対象者数	58,609	58,155	58,045	57,796	57,598
		受診者数	7,663	7,520	7,209	6,997	6,397
		受診率	13.1	12.9	12.4	12.1	11.1
		要精検者数	603	575	561	540	517
		精密検診受診率	83.1	86.9	85.7	89.4	
		がん発見者数	15	8	14	13	

			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
※前立腺がん	50歳以上男性	対象者数	21,402	21,177	21,172	21,711	21,473
		受診者数	6,455	6,440	6,339	6,797	5,095
		受診率	30.2	30.4	29.9	31.3	23.7
		要精検者数	531	561	549	544	427
		がん発見者数	14	23	18	23	
骨粗しょう症検査		受診者数	575	609	640	637	537
腹部超音波検査		受診者数	797	838	736	1,205	595
歯周病検診	40歳	対象者数	3,389	5,130	5,176	4,958	4,879
	50歳	受診者数	462	564	590	553	501
	60歳	受診率	13.6	11.0	11.4	11.2	10.3
	70歳						
	男女	要精検者率	84.0	78.7	74.4	75.4	79.0

※はがん検診指針以外の検診

注) 受診対象者は、平成27年度から就業者、平成28年度からは要介護者を含める。

注) 歯周病検診の対象者数は、平成29年度から就業者及び要介護者も含める。

(イ) 特定健康診査

(単位: 人、%)

		平成 29 年度			平成 30 年度			令和元年度		
		男 性	女 性	計	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計
対 象 者 数		7,198	7,682	14,880	7,014	7,455	14,469	6,899	7,351	14,250
受 診 者 数		3,857	4,717	8,574	3,806	4,565	8,371	3,826	4,556	8,382
受 診 率		53.6	61.4	57.6	54.3	61.2	57.9	55.5	60.2	58.8
評価対象者数		3,858	4,720	8,578	3,806	4,565	8,371	3,826	4,557	8,383
内臓脂肪症候群該当者数	実 数	1,061	548	1,609	1,115	538	1,653	1,144	564	1,708
	割 合	27.5	11.6	18.8	29.3	11.8	19.7	29.9	12.4	20.4
内臓脂肪症候群予備軍者数	実 数	757	392	1,149	693	347	1,040	713	361	1,074
	割 合	19.6	8.3	13.4	18.2	7.6	12.4	18.6	7.9	12.8
高血圧薬服用者数	実 数	1,898	1,927	3,825	1,942	1,929	3,871	1,930	1,891	3,821
	割 合	49.2	40.8	44.6	51.0	42.3	46.2	50.4	41.5	45.6
高脂血症薬服用者数	実 数	717	1,340	2,057	816	1,400	2,216	888	1,452	2,340
	割 合	18.6	28.4	24.0	21.4	30.7	26.5	23.2	31.9	27.9
糖尿病治療薬服用者数	実 数	561	390	951	571	401	972	590	409	999
	割 合	14.5	8.3	11.1	15.0	8.8	11.6	15.4	9.0	11.9

※集計表は法定報告集計結果

(ウ) 特定保健指導

(単位:人、%)

		平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		男 性	女 性	計	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計
動 機 付 け 支 援	対象者数	436	286	722	412	270	682	417	266	683
	利用者数	294	194	488	268	186	454	240	137	377
	終了者数	222	143	365	175	137	312	178	107	285
積 極 的 支 援	対象者数	94	34	128	92	14	106	100	15	115
	利用者数	51	22	73	49	11	60	49	10	59
	終了者数	9	1	10	8	3	11	7	0	7
計	対象者数	530	320	850	504	284	788	517	281	798
	利用者数	345	216	561	317	197	514	289	147	436
	終了者数	231	144	375	183	140	323	185	107	292
利 用 率		65.1	67.5	66.0	65.0	68.9	66.6	55.9	52.3	54.6
実施率(終了率)		43.6	45.0	44.1	36.3	49.3	41.0	35.8	38.1	36.6

(エ) 要フォロー者保健指導事業

(単位:人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
要フォロー基準対象者数	2,215	2,216	3,401	2,946	763
保 健 指 導 者 数	1,526	1,507	2,211	2,026	532

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため面接対象基準を変更

(オ) 糖尿病性腎症重症化予防事業

(単位:人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
対 象 者 数	244	418	183	574	567
保健指導参加者数	23	38	30	45	25
途 中 辞 退 者 数	4	13	13	6	10
終 了 者 数	19	25	17	39	15

(カ) 川薩圏域CKD予防ネットワーク事業

(単位:人)

	令和2年5月末	令和3年5月末
特定健診受診者数	8,149	8,382
CKD予防ネットワーク基準該当者数	1,102	918
CKD予防ネットワーク受診報告書(0様式)配布数	934	872
かかりつけ医等受診者数	581	499

(キ)川薩圏域CKD予防ネットワークかかりつけ医及び腎臓診療医登録状況 (単位:人)

	かかりつけ医	腎臓診療医
事業開始(平成27年4月)時点	51(35 医療機関)	8(6 医療機関)
令和3年5月末時点	68(46 医療機関)	12(7 医療機関)

(ク)糖尿病予防料理教室自主グループ支援 (単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	12	12	12	11	10
延べ参加人数 (実人数)	236 (28)	256 (31)	247 (31)	188 (24)	74 (18)

(ケ)CKD改善栄養教室 (単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	6	6	6	11	5
延べ参加人数 (実人数)	43 (18)	33 (10)	32 (9)	34 (11)	41 (11)

(コ)健康相談 (単位:回、人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
合計	177	1,743	206	1,843	239	1,749	274	3,242	196	1,228

(サ)健康教育 (単位:回、人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
一般	67	1,402	47	963	42	873	34	669	20	242
病態別	26	460	34	652	27	467	20	265	34	692
骨粗鬆症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯周疾患	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0
合計	93	1,862	81	1,615	69	1,340	55	941	54	939

(シ)訪問指導

(単位:人)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
要指導者	実人員	595	510	320	542	472
	延人員	655	566	374	578	517
閉じこもり 予 防	実人員	11	20	3	7	3
	延人員	16	21	3	7	3
介護家族 者	実人員	17	24	27	19	27
	延人員	17	26	35	19	35
寝たきり者	実人員	1	4	3	0	3
	延人員	1	4	4	0	4
認知症	実人員	21	32	12	5	12
	延人員	26	41	18	5	18
そ の 他	実人員	170	99	70	21	70
	延人員	209	137	89	21	89
合 計	実人員	815	689	587	594	587
	延人員	924	792	666	630	666

(ス)8020高齢者よい歯の表彰

(単位:人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
表彰者数	36	41	45	37	—

(セ)薩摩川内市ヘルシーメニュー提供登録店(令和3年6月末現在)

登録内容	事業所数
バランスメニュー(飲食店)	2
バランスメニュー(お弁当・惣菜)	4
野菜たっぷりメニュー(飲食店)	9
野菜たっぷりメニュー(お弁当・惣菜)	1
ヘルシースイーツ	2
合 計	18

(ソ)薩摩川内市350ベジライフ宣言

1 情報発信・周知

(A) 公式 FACEBook を利用した情報発信

(B) 「350ベジライフ通信」の発行(年4回)

[配布先]関係団体、350ベジライフ賛同団体、公共施設等

2 賛同団体登録制度

(A) 登録団体数132団体(令和3年6月30日現在)

令和2年度登録数:16 団体

(B) 市ホームページや公式 FACEBook での団体・活動紹介による周知広報

3 8月31日「野菜の日」の取り組み（市内一斉ベジライフ運動）

- (A) 薩摩川内市食生活改善推進員による野菜の日キャンペーンの実施
市内10カ所(チラシ配布等)
- (B) 健康づくり推進協議会及び賛同団体等による一斉の取り組み(35団体)
賛同団体13店舗において野菜の日限定メニューの提供
- (C) 市役所各部署による取り組み(59部署)
- (D) 野菜の日チラシ・ポスターを作成による周知・広報
- (E) FMさつまさんだいによる周知・広報
令和2年8月27日(木)あおまる暮らしの情報
- (F) 公式 FACEBook での取り組み紹介

4 各種団体への普及推進

計6回(延べ70名)

高齢者サロン, 介護予防教室(わっはっは教室), 糖尿病予防自主グループ等

(タ) 食生活改善推進員事業

1 学校・保育機関・地区コミュニティ協議会と協力した講話、実習 (単位: 回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	38	38	30	28	1
参加人数	1,210	820	506	521	24

2 「食育の日」(毎月19日)普及キャンペーン (単位: 回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	42	28	25	26	8
参加延人数	2,435	1,652	1,332	1,382	350

3 健康づくり栄養教室 (単位: 回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	42	39	47	38	—
参加人数	774	582	824	639	—

4 減塩料理教室(脳卒中对策事業) (単位: 回、人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施回数	18	15	14	15
参加人数	283	219	230	244

※令和元年度から、健康づくり栄養教室に統一して実施

5 減塩運動キャンペーン(脳卒中对策事業) (単位: 回、人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施回数	34	35	19	15
参加人数	1,471	1,732	1,235	887

※令和元年度から、食育の日普及キャンペーンに統一して実施

6 食生活改善推進員の育成(市主催研修会)

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
推進員数	183	168	142	129	125
実施回数	3	3+補講 3	3+補講 2	3	3
延参加人数	447	437	376	328	284

(チ)自殺対策事業

1 こころの健康相談

(単位:人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
相 談 者 数	12	11	17	21	14

2 こころの健康づくり講演会

(単位:人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
参 加 者 数	400	350	210	240	—

3 その他普及啓発事業

(A) 広報紙による普及啓発事業

(B) 街頭キャンペーン:自殺予防週間に保健所と合同で、市内1か所で実施

(C) 自殺対策強化月間啓発事業

- ・保健センター利用者に対する自殺予防啓発グッズ配布
- ・スタッフジャンパー着用

(6) 介護予防事業

(ア) 介護予防総合通所型事業 <ミニデイサービス>

(単位:回、人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
会 場 数	21	20	21	17
実 施 回 数	5,105	4,493	4,592	4,018
延 参 加 者 数	78,172	78,796	77,579	57,608

(イ) 運動を主体とした教室 <飯にこにこ教室>

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	58	63	65	26	16
延 参 加 者 数 (実参加者数)	671 (92)	622 (87)	557 (72)	279 (33)	178 (29)
教 室 数	5	5	5	2	2
内 容	口腔・栄養講座 を含む	口腔・栄養講座 を含む	口腔・栄養講座 を含む	口腔・栄養講座 を含む	健康運動指導 士による

(ウ) 各地域における健康教育

(単位:回、人)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
運 動 指 導	24	404	31	493	11	145	30	340	14	162
認 知 症 予 防	9	234	1	24	2	57	2	61	—	—
栄 養 指 導	40	762	12	247	32	492	12	262	—	—
生活習慣病予防	1	45	2	171	7	139	4	26	28	49
口 腔 指 導	10	163	5	73	9	160	10	141	—	—
そ の 他	28	697	13	323	16	242	14	269	29	344
合 計	112	2,305	64	1,331	77	1,235	72	1,099	61	555

(エ) 歯科健康教育<噛む噛む歯っぴい教室>

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	3	5	—	1	—
参 加 者 数	54	73	—	7	—

(オ) 各地域における健康相談

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	144	105	90	94	57
延参加人数	1,914	1,413	1,314	903	393

(カ)キャラバン・メイト研修会

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	3	3	2	3	1
延 参 加 者 人 数	72	71	58	79	28

(キ)キャラバン・メイト実施による認知症サポーター養成講座

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	89	68	41	65	24
実 施 人 数	3,474	2,593	1,706	2,162	835

(ク)介護予防事業リーダー研修会

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実 施 回 数	2	2	2	6	1
延 参 加 者 人 数	82	102	102	104	10

(ケ)介護予防事業リーダーによるわっはっは教室>

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教 室 数	46	51	52	48	44
実 施 回 数	618	623	662	627	493
延 参 加 者 人 数	7,628	7,119	7,470	6,560	5,026

(コ)ふれあいいいきサロン事業

(単位:回、人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
会 場 数	271	284	298	392	329
実 施 回 数	5,798	6,608	6,900	9088	5,228
参 加 者 人 数	74,303	82,650	85,156	108,955	63,807

(サ)認知症カフェ(介護者支援)

(単位:回、人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
会 場 数	10	10	10	9
実 施 回 数	261	272	282	197
延 参 加 者 数	2,004	3,006	3, 641	2,256

(シ)薩摩川内市家族介護者の会「よいやんせ」

平成26年12月に発足(月1回開催)

(7) 健康づくり推進協議会作業部会

(単位:回、人)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
母子保健 対策部会	回数	2	2	2	2	1
	延参加者数	20	22	21	22	13(書面開催)
働く世代の健康 づくり対策部会	回数	2	2	2	2	—
	延参加者数	27	24	17	22	—
高齢者の健康 づくり対策部会	回数	2	2	2	2	—
	延参加者数	27	23	22	22	—
栄養・食生活 対策部会	回数	2	2	2	2	—
	延参加者数	19	17	17	14	—